

平成 14 年度第 2 回浦安市廃棄物減量等推進審議会議事録

- 1 開催日時 平成14年 7 月16日（火） 午前10時～午前11時30分
- 2 開催場所 健康センター 地下 1 階第 2 会議室
- 3 出席者
(委員)
横山会長、服部副会長、内田委員、前野委員、原委員、吉村委員、田代委員、小暮委員、岩田委員、風巻委員、藤森委員、大塚委員、神子委員、小林委員
(事務局)
村瀬部長、中村次長、宇田川課長、上林課長補佐、岡本係長、吉泉副主査、平林副主査

4 議 題

- (1) 「諮問」について
- (2) その他

5 議事の概要

市長から当審議会に対し下記の諮問が提出された。

(1) 諮問について

事務局より諮問事項である「一般廃棄物収集にかかる指定袋の導入について」の理由、効果、方法について説明をした。

(2) その他

審議会のスケジュール変更についての確認をした。

会議録の公開について公開方法の説明を事務局からおこなった。

その他廃棄物処理に関する意見を委員から出しあった。

6 会議経過

(1) 諮問について

事務局より諮問事項「一般廃棄物収集にかかる指定袋の導入方法」の理由、考え方、目的・効果及び導入方法を資料に基づき説明をおこなった。

この説明内容に対しての各委員からの質問・意見をだしあった。

その際に表明された意見は、次のとおり

- ・ ごみ排出の現状で、資源ごみの分別が不十分との説明があったが詳しく説明願う。
事務局 びん・缶・ペットボトルについては、収集ステーションにて回収をしていますが、ステーションへの排出を面倒に思い、黒いごみ袋やコンビニの袋の中にいれ排出している状況が見受けられる。浦安市の場合は、地域差や居住形態によって分別徹底の差が大きい。
- ・ ごみ袋を指定することにより資源ごみ分別の効果が、はっきりでるのか疑問だ。分別は、各個人の意識の問題であり啓蒙・啓発が大事だと思う。
- ・ 今までもビーナスニュース等での啓発活動は行われているが、ごみ問題について意識の低い人は、それを見ることは少ない。しかし主婦層にとって指定ごみ袋有料制は大きな問題であり、ごみ減量に対し努力をすることになる。

- ・ 紙の資源物の中にごみが入っていると選別コストが非常に高い。
指定袋制にすることにより、可燃ごみとして排出されていた紙資源が、分別排出されることが予想できる。
- ・ 家族単位（多人数世帯）では、導入により意識の改善は高まると思われるが、若い単身世帯はごみ袋を購入しなければならないことにより、レジ袋などにごみを入れ排出されるケースや不法投棄の増大が考えられるのでそれを考慮する必要がある。
- ・ 指定袋制を導入した場合の利点、欠点の洗い出しが必要。
- ・ 現在、事業者として消費者に対しての不法投棄対策はしていないが、それほど非常識な消費者は見うけられない。
- ・ 単身世帯としては、ごみ出しの啓発資料自体目を通さないことが多い。習慣のひとつになっているごみ出しの意識を変えることは指定ごみ袋制だけでは難しいので、指定ごみ袋と平行して何か考える必要がある。
- ・ 市民として、ごみ減量・再資源化は義務であり、そのひとつの方法として指定ごみ袋があると考える。啓発等についてほかの方法を兼ね備えて提案するべきであり、諮問は「指定袋」であるが有料時の金額、啓発の方法を含め答申すべきである。
- ・ 地域差、年代差など生活形態の違いは各個人別々であり、その分意識の違いも出てくるので啓発が重要になってくる。しかし、一方的な啓発は個人の中には入っていない。
- ・ 以前、浦安市が指定ごみ袋制を実施していたときに、販売店が少なく煩わしい思いをしたことがあるが、その指定袋を使うことによって廃棄物が適正処理されるという意識は持てた。ただ、単身の若い世代にどれだけ意識の啓発効果または受け入れがされるかはリサーチ等が必要。
- ・ 若い世代に強制するわけにはいかないが、浦安市に居住する以上、市の決まりごとにそってもらわなければいけない事もある。例えば賃貸マンションであれば管理人に排出管理をしてもらうことが必要である。そのためには若い人の意見も聞き決定していかなければならない。
- ・ 主婦の立場から、調理を自分でするとごみが少ない。しかし材料を購入した際に余計な包装（容器・白色発泡トレイ以外の木目調トレイ等）がされてくる。便利さ以外にごみ処理時を考慮した販売を事業者は考えるべきである。以前、色つきトレイで表面を剥がすと白色トレイになりリサイクルできる商品もあった。そういうアイデアも必要。
- ・ 流通事業者は、販売時まで包装・付加されている物をごみとっていない。購入後には全て包装はごみになってしまう。浦安市の問題だけでなく全国的な問題であるが、ごみ処理を考慮した販売事業を事業者は行わなくてはならない。
今、我々の出来ることは、現行どおりでよいか有料制指定袋を取り入れるか、また今までどおりの場合は廃棄物の排出管理をどのように行うかが問題である。
- ・ 資源として収集する新聞等は、雨で濡れると可燃物になってしまうのではないかと。袋に入れての排出を検討すべきではないか。
- ・ 当日の朝、排出された新聞であれば当日の雨であれば中まで染み込まない。作業時にも埃を取るために水をかける作業がある。しかし前日、前々日に排出され濡れて

しまっていると再資源化できない。また袋に入れた場合は、袋を破く作業が必要になり作業能率が悪化する事や破いた後の袋は可燃ごみになる。

- ・ 指定袋制が導入され分別が進み、現在の1.5倍の資源ごみが出た場合、再資源化費用は増えるが焼却費用は減少する。
- ・ 有料指定袋を実施した際に、資源ごみは無料なのでごみを混入される可能性あり。廃棄物処理に対する意識問題である。
- ・ 紙資源のなかに鉛筆等の危険物も混入している場合もある。
- ・ 単身者で住民登録もしておらず、新聞もとっていない人は市の広報等による啓発ができない。「防災うらやす」にて啓発したい。
- ・ 「防災うらやす」での啓発は騒音の問題で難しい。
- ・ 20年先を考えた子供への環境・ごみ教育が必要。

現状は、ごみ減量・ごみの分別を子供たちが学校で勉強をし、家庭で子供が父兄にそれを伝えたと1/3位の家庭で分別の実施をしてくれるようだ。まず、子供が分別の意識を持ってくれる事が大切。

- ・ 個人のモラルの問題等すべてを解決する方法はないが、有料指定袋制を実施することにより変化を望める。また、その都度改善策を考える。
- ・ 市の財政のことも考慮したうえで、いかに要望の最大公約数的なところをとり入れる。また、ひとりひとりへの周知が課題。
- ・ 事務局へ質問。指定ごみ袋実施時の年間経費について。

事務局 審議会で導入方法を決定して後に試算する予定です。今後、近隣市の単価等を調査し、試算を資料として提出します。

- ・ 市としての目的は、ごみ減量であるのか。または、有料化による財政補填にあるのか。

減量目標については具体的にどの程度か。

- ・ 有料化による市への財政的な影響ではなく、目的はごみ減量です。目標については平成12年度排出量より1人1日50グラムの減量を目指します。

(2) その他

- ・ スケジュールについて 第2回審議会の開催は当初8月予定だったが本日も行った。10月に視察予定だったが、視察と審議会を11月に同時に行う。視察重点内容について、委員からの希望を8月中に事務局へ連絡する。
- ・ 会議録について (事務局より) 会議終了後、1ヶ月以内に会議録をまとめ情報公開をします。前回分については既に公開済みです。会議録がまとまり次第、委員に郵送し確認を願います。1週間以内に訂正連絡がない場合了承とし会議録を情報公開します。
- ・ ごみ袋に氏名を書いて排出する方法も、ごみ減量の手段のひとつではないか。
- ・ からすの繁殖による被害について、ごみゼロ課としては、排出・収集時のごみ散乱防止としてごみ散乱防護用ネットの貸与を実施しています。
- ・ 生ごみ処理機を導入し、たい肥化、ごみ減量に努めている事業所もある。

附属機関等の概要

(平成14年8月1日現在)

附属機関等の名称	浦安市廃棄物減量等推進審議会
設置根拠	浦安市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例6条・7条 浦安市廃棄物減量等推進審議会規則
設置の趣旨、必要性等	一般廃棄物の減量等に関する事項について、市長の諮問に応じ、調査及び審議を行う。
設置年月日	平成14年5月29日
所管事項	(1) 一般廃棄物の減量等に関する事項
公開、非公開の別	原則公開 ・ 原則非公開 ・ 非公開
非公開とする理由	
非公開の根拠	
委員の人数・任期	15名 2年
委員の報酬	会長 9,500円/日額 委員 9,000円/日額
所管部署	環境部ごみゼロ課 担当 平林 電話047 351 1111(内線)1456
備考	

委員名簿

氏名	職等	男女	備考
横山清美	学識経験者	女	会長
服部丈夫	学識経験者	女	副会長
内田恵美子	市民代表	女	委員
前野春枝	市民代表	女	委員
原早苗	市民代表	女	委員

吉 村 匡 弘	市民代表	男	委 員
田 代 義 信	市民代表	男	委 員
小 暮 さゆり	市民代表	女	委 員
岩 田 志 乃	市民代表	女	委 員
相 馬 敏 彦	事業者	男	委 員
風 卷 肇	事業者	男	委 員
藤 森 伸 一	事業者	男	委 員
大 塚 悟	事業者	男	委 員
神 子 昭 子	廃棄物処理業者	女	委 員
小 林 勝 利	廃棄物処理業者	男	委 員